

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●有馬記念はリスグラシューが優勝

12月22日(日)に行われた有馬記念(G I)ではリスグラシュー(牝5歳/栗東・矢作芳人厩舎)が勝利しました。同一年の宝塚記念・有馬記念連覇は史上10頭目、牝馬としては初の快挙。なお同レースには11頭のG Iウィナーが出走しましたが、これは2009年および2014年の10頭を抜き、有馬記念史上最多のこととなります。

●中山大障害はシンゲンマイケルが優勝

12月21日(土)に行われた中山大障害(J・G I)ではシンゲンマイケル(騾5歳/美浦・高市圭二厩舎)が勝利、J・G I初制覇を果たしました。高市調教師および同馬に騎乗した金子光希騎手にとっても初のJ・G I制覇となります。

●中内田充正調教師がJRA通算200勝を達成

12月21日(土)の5回阪神7日・第4レースではスワーヴドンが1着となり、同馬を管理する中内田充正調教師(栗東)は、現役107人目となるJRA通算200勝(延べ1238頭目)を達成しました。開業から5年9か月21日での200勝達成は、矢作芳人調教師(栗東)の6年1か月10日を抜き、JRA現役最速の記録となります。

●シュヴァルグラン、レイデオロらの競走馬登録抹消

2017年ジャパンカップ(G I)などの勝ち馬シュヴァルグラン(牡7歳/栗東・友道康夫厩舎/JRA通算30戦7勝・海外3戦0勝)、2017年日本ダービー(G I)や2018年天皇賞(秋)(G I)などの勝ち馬レイデオロ(牡5歳/美浦・藤沢和雄厩舎/JRA通算15戦7勝・海外2戦0勝)のほか、2017年エプソムC(G III)の勝ち馬ダッシングブレイズ(牡7歳/栗東・斉藤崇史厩舎/JRA通算30戦7勝)、2019年ローレル競馬場賞中山牝馬S(G III)の勝ち馬フロンテアクイーン(牝6歳/美浦・国枝栄厩舎/JRA通算30戦3勝)は、12月25日(水)までに競走馬登録を抹消されました。シュヴァルグランは北海道日高町のブリーダーズ・スタリオン・ステーション、レイデオロは北海道安平町の社台スタリオンステーションで種牡馬となり、ダッシングブレイズはJRA馬事公苑で乗馬、フロンテアクイーンは北海道浦河町の林孝輝牧場で繁殖馬となる予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●JBCスプリントの覇者ブルドッグボスがJRAに復帰

JRAで7勝後に浦和に移籍、今年のJBCスプリント(Jpn I)に優勝したブルドッグボス(牡7歳、父ダイワメジャー)は、12月25日のゴールドC(浦和)1着を最後にJRAに再転入し、来年2月23日のフェブラリーS(G I)を目指す予定です。

●ガンバルンが高知デビュー馬の頂点に【各地の主要2歳重賞】

高知デビュー馬限定戦の黒潮ジュニアチャンピオンシップ(11月24日、高知、1400m)は、先手を取った2番人気のガンバルン(牝、父トウザワールド)が1番人気のシェナオセロに2馬身差を付けて逃げ切りました。寒菊賞(12月9日、水沢、1600m)は、逃げた若駒賞馬グランコージー(牡、父ベルシャザール)が後続を2馬身引き離し、1番人気に当たっています。

●ゴールドドリームらが出走、12月29日の東京大賞典(大井)

東京大賞典(G I、12月29日、大井、2000m)は、昨年の2着馬でG I・Jpn Iを5勝しているゴールドドリーム、連覇を狙うオメガパフューム、ケイティブレイブの3頭が主力を形成、以下ロンドンタウン、モジアナフレイバー(大井)、ノンコノユメ(大井)までが争覇圏内と考えられます。他にJRAからはロードゴラッソ、アポロテネシー、サノサマーが出走を予定しています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●2019年は日本調教馬が海外で史上最多のG1・8勝

今年日本調教馬が海外で大活躍。史上最多となる海外G1・8勝をあげました。口火を切ったのはアーモンドアイ(牝4歳、美浦・国枝栄厩舎)。3月のドバイターフ(UAE、芝1800m)を鮮やかに差し切って優勝、その名を世界に轟かせました。8月に日本産の日本調教馬として初となるイギリスG1制覇を成し遂げたのがディアドラ(牝5歳、栗東・橋田満厩舎)。ナッソーS(芝1980m)で見事な末脚を披露しての快挙達成でした。2週連続のG1制覇に沸いたのはオーストラリア。10月19日のコーフィールドC(芝2400m)をメールドグラス(牡4歳、栗東・清水久詞厩舎)が制すと、その翌週の26日にはコックスプレート(芝2040m)もリスグラシュー(牝5歳、栗東・矢作芳人厩舎)が優勝しました。そして師走のビッグニュースとなったのが2001年以来となる香港国際競走におけるG1・3勝。グローリーヴェイズ(牡4歳、美浦・尾関知人厩舎)が香港ヴァーズ(芝2400m)、アドマイヤマーズ(牡3歳、栗東・友道康夫厩舎)が香港マイル(芝1600m)、そしてウインブライト(牡5歳、美浦・畠山吉宏厩舎)が香港C(芝2000m)で勝利を手に入れました。なお、ウインブライトは4月にも同じ香港のクイーンエリザベスII世C(芝2000m)をコースレコードで完勝。日本調教馬が同一年に海外で複数のG1を制したのは2016年のモーリス(チャンピオンズマイルと香港C)以来2頭目のことです。